

マチに学び都市を楽しむ / まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2008年度(第7期)事業報告書

1. 旅クラブが2008年度に取り組んだ事業実績

2008年度は、「ご来光カフェ」の実施を中心に、調査業務も受託するなど、中之島を中心的な活動エリアとして、主に水を活かす提案型の活動を行った。同時に、昨年に引き続き公的な機関や関西を代表する企業と連携がさらに高まり、知恵と汗を併せ持つNPOとしてのプレゼンスが一層高められた。また、昨年度より開始した「大阪まち遊学」を通年事業としてコースを拡充し、コミュニティ・ツーリズムへの実践を試みた。

以下が本年度の主な事業項目一覧である。

- (1) 大阪の水辺活性化方策に関する調査・企画検討
- (2) 水都大阪への取り組み～2020へ向けて 提言策定調査
- (3) 「ご来光カフェ」中之島物語～その魅力と未力 の企画・運営
- (4) 大阪まち遊学の企画・実施
- (5) 大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力
- (6) 水都大阪 2009 クルーズ&ウォーク企画および運営事業への参画
- (7) もうひとつの旅談義の企画・実施
- (8) 情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

(1) 大阪の水辺活性化方策に関する調査・企画検討

【事業趣旨・目的】

大阪における水辺の取り組みの継続的な実施の仕組みを検討する。特に「大阪川床」「小型船経常運航」の取り組みについて、継続実施を前提としたより具体的な企画検討を行い、関係団体への提言を行うことにより、大阪の水都再生・地域活性化に資することを目的とする。

【事業内容】

- ・期 間：2007年11月～2008年2月
- ・対象エリア：水の回廊、中之島地域他
- ・委託者：関西電力株式会社
- ・内 容： 国内の水辺活用事例と大阪での活用検討
市民参加による小型船を中心とした舟運の活性化

(2) 水都大阪への取り組み～2020 へ向けて 提言策定調査

【事業趣旨・目的】









「水都大阪」をテーマとする将来に向けた提言、構想等は、行政や財界等による委員会、協議会等を中心にいくつも発表されている。ここでは、大阪 21 世紀協会の水都大阪にかかる今後の事業の展開に際して、活動指針ともなる新たな提言を検討することを目的としている。

【事業内容】

- ・期 間：2007 年 11 月～2008 年 3 月
- ・対象エリア：大阪市域全域
- ・委託者：財団法人大阪 21 世紀協会
- ・内 容： 大阪の各種取り組みと現状
河川関係者へのヒアリング
河川・海と暮らしとの関わりの変遷調査
水都大阪への提案

【事業成果】

- ・成果の 1 つとして「川と人の暮らしの関わりの推移」をまとめた年表を作成（下表部分抜粋）

年代	大阪の河川利用の変遷	川の環境・災害 に関する	川の管理 維持する	活機 定める	産業 変遷	交通・流通 変遷・変遷	新・観光 誘致・誘致
1950年代		戦後復興期、河川は生活の基盤として重要な役割を果たしていた。しかし、都市化の進展に伴って、河川の環境が劣化し、災害リスクが高まっていることが認識された。	河川の管理は、主に治水（洪水防止）と灌漑（農業用水供給）に重点が置かれていた。	治水の観点から、河川の活機（活力）を高めるための取り組みが開始された。	戦後復興期、河川は生活の基盤として重要な役割を果たしていた。しかし、都市化の進展に伴って、河川の環境が劣化し、災害リスクが高まっていることが認識された。	戦後復興期、河川は生活の基盤として重要な役割を果たしていた。しかし、都市化の進展に伴って、河川の環境が劣化し、災害リスクが高まっていることが認識された。	戦後復興期、河川は生活の基盤として重要な役割を果たしていた。しかし、都市化の進展に伴って、河川の環境が劣化し、災害リスクが高まっていることが認識された。
1960年代		高度経済成長期、河川の環境が劣化する一方で、治水技術の進歩により、災害リスクは軽減された。	河川の管理は、治水と灌漑に加え、河川の環境保全が重視されるようになった。	河川の活機を高めるための取り組みが本格化した。	高度経済成長期、河川の環境が劣化する一方で、治水技術の進歩により、災害リスクは軽減された。	高度経済成長期、河川の環境が劣化する一方で、治水技術の進歩により、災害リスクは軽減された。	高度経済成長期、河川の環境が劣化する一方で、治水技術の進歩により、災害リスクは軽減された。
1970年代		公害問題の深刻化に伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	公害問題の深刻化に伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	公害問題の深刻化に伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	公害問題の深刻化に伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。
1980年代		環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。
1990年代		環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。
2000年代		環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。
2010年代		環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。
2020年代		環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	河川の管理は、環境保全が中心となり、治水と灌漑の役割は相対的に弱まった。	河川の活機を高めるための取り組みが継続された。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。	環境意識の高まりに伴って、河川の環境保全が社会的に求められるようになった。

(3) 「ご来光カフェ」 中之島物語～その魅力と未力 の企画・運営

【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案し、各人それぞれの「中之島時間」を発見していただくことで、実施期間後、1人でも多くの方に中之島の豊かな普段使いをしていただくことを目的とし、今年で3年目の開催となった。

【事業内容】

- ・ 期 間：2008年10月1日（水）～8日（水）
- ・ 営業時間：日の出（5:50頃）～8:30
- ・ 場 所：大阪水上バス淀屋橋港棧橋
- ・ 内 容： 棧橋を装飾し、テーブル・ベンチ（営業時間後撤去・保管）を設置して朝日を眺められるカフェを営業、飲み物は400円で提供
 アクア mini によるミニクルーズの実施（7時より随時、乗船料1000円ワド[®]リンク付）
 専用ホームページによるPRと営業日誌の公開
 アンケートの実施
 継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフの募集
- ・ 協 力：大阪水上バス株式会社



【事業成果】

初日、雨で休業するも、続く二日間は美しいご来光を眺めることができた。後半は曇りの日が多かったが、それでも平均で昨年を上回る259人（1日平均39人）の来場者があり（昨年平均33人）、特に朝のミニクルーズは134人（1日平均19人）で昨年の倍近くに増えた。ホームページへのアクセスは2495カウント（8/24～10/24）であった（昨年2006）。全体の76%が新規の来訪者であり、リピーターの割合は5ポイント増え、定着しつつあることがうかがえる。開催情報は来訪者の口コミが昨年同様、最も多かった。マスコミの取材はラジオ放送2回（NHK大阪FM・ラジオ大阪）であった。一昨年、昨年に引き続き、棧橋の活用を水都大阪の魅力資源として示すことができた。

【活動写真や告知資料】



ご来光の瞬間



朝のミニクルーズ(上)

朝の清々しい雰囲気満喫

アンケート結果 (n = 207)



図 ご来光カフェで一番新鮮に感じられたのはどの部分ですか(経験者と初体験者の比較)

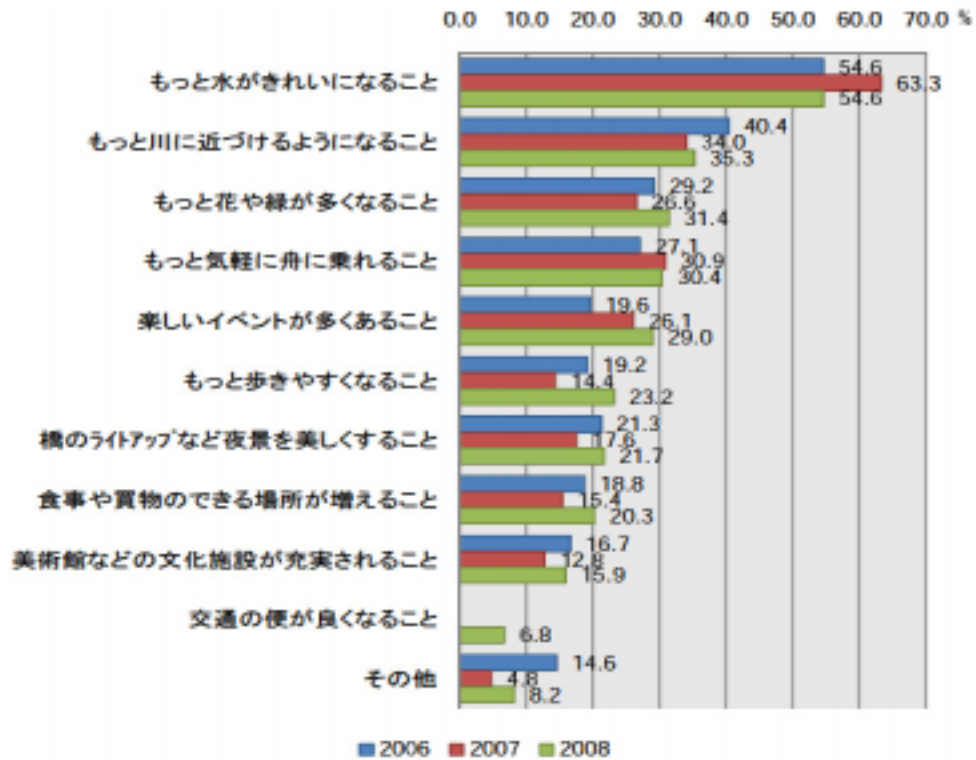


図 中之島の魅力アップのためには何が必要と思いますか(複数回答)

- ・ご来光カフェの来訪者は、女性が6割を占め、年齢も20代～30代の若い層が7割を占めた。今年は昨年に比べて50代、60代以上のシニア層が増加した。約1/4がリピーターであり、ホームページで知ったという人が増えている。
- ・来訪者の多くが、生駒の山から昇る朝日を眺めるだけでなく、早朝の街の雰囲気、ゆったりと流れる時間を新鮮に体感されており、水辺の持つ多くの魅力を発見する機会が得られていた。この傾向は3年間変わっていない。
- ・魅力アップの方策としては、川の水をきれいにするのが最も期待されている。次いで川へのアクセスの向上、舟運の活性化、イベントの開催などが多く、引き続き水辺の整備など親水性を高め、舟を活用したイベント等の開催を行うことが期待されている。

(4) 大阪まち遊学の企画・実施

【事業趣旨・目的】

オープンガーデンの庭をまちに例える「オープンタウン」。自分の生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を、その生活をその人の視点で紹介、自慢する、オープンにする。旅人とジモティとの出会いからこそ新たなコミュニティ・旅のプログラムが生まれる。

【事業内容】

- ・8 コース（うち 3 コースは H19 に実施）のまち歩きプログラムを開発、参加者募集、実施



【事業成果】

実施日	エリア	タイトル	参加者数 (お客さん)	参加者数 (NPO・関係者)
4/12(土)	法円坂	台地のでっぺん	4 名	3 名
5/10(土)	大正	水に浮かぶ最後の楽園	16 名	4 名
6/14(土)	四天王寺	現世・来世の音めぐり	12 名	6 名
7/12(土)	野田	長屋と路地の迷宮	16 名	4 名
8/9(土)	大阪城	納涼 歴史ミステリー	12 名	6 名
9/13(土)	大阪駅	80 万乗降客の舞台裏	13 名	6 名
10/11(土)	天満天神	天神祭を支える底力	6 名	4 名
11/8(土)	北大江	なにわ津の玄関	10 名	4 名

- ・お客さんのコンスタントな参加を得た。
- ・旅クラブメンバーが自らコースをつくり案内するという貴重な経験をした。

【活動写真や告知資料】



四天王寺



大阪駅



毎日新聞
(3/21夕刊)

(5) 大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力

【事業趣旨・目的】

大阪の風物詩をつくる

…民間主導で持続可能性のある大阪ならではの風物詩

連続性をつくる

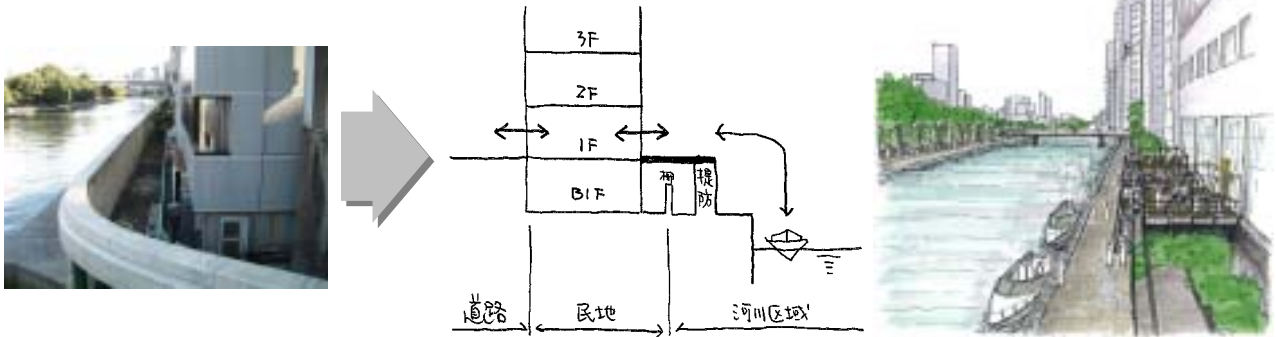
…分断された川と陸地をつなぎ、大阪の日常に川を取り込む

ストックの積極的利用

…民間が既存の公共空間（川・護岸）を積極的に活用する


【事業内容】

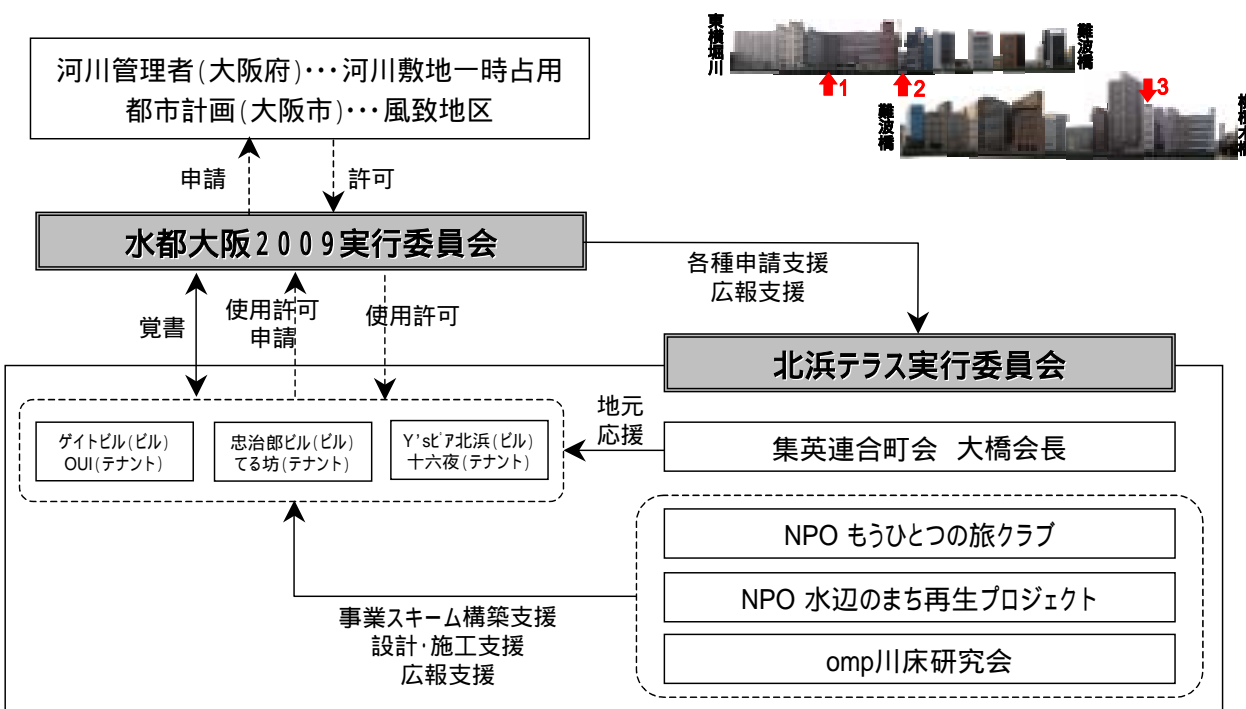
沿川のビルオーナー、テナント、町会、NPOにより北浜テラス実行委員会を組成し、当NPOは、主に全体事業スキームの立案、関係者調整等を実施。



実施概要

主催：北浜テラス実行委員会、水都大阪2009実行委員会
 設置：十六夜（Y'sビア北浜）、てる坊（忠治郎ビル）、OUI（北浜ゲイトビル）の3店舗で実施
 期間：10/1～11/7の約1ヶ月間
 構造：レンタル足場





【事業成果】

- ・誰もがわかりやすく楽しめる新たな「水都大阪の風物詩」の誕生
- ・1ヶ月で2000人を超えるテラス来場者数を記録
- ・エンドユーザーからの高い評価と「川床」に対する期待感の醸成（アンケート結果）
- ・地元建物オーナー、テナントからの高い評価と、来年実施要望など地元機運の高まり
- ・ソフト・ハード上の課題抽出、成果検証

例： レンタル足場による構築物 - コスト・工期・仕様等
 店舗オペレーション
 文化の発信源としての「イベント開催」と反響

【事業成果】

- ・大阪府河川占用準則緩和の仕組みの活用による常設化
 - …公共性・公益性の確保（地域全体メリット、川床以外への配慮、占用料の使い方など）
- ・地元協議会の設置と各種合意形成の必要性
 - …準則緩和スキームを活用するためには、「地元の総意で取り組む」こと、その主体があることが必要、専門性をふまえた関係者の合意形成のプロセスが不可欠
- ・水辺や川床のハード・デザインや運用のルールづくり
 - …川床の各種デザイン、ルールに加え、船からのアクセスや川沿い遊歩道化などとの関係性が魅力向上には不可欠
- ・継続的な地元協議会の事務局体制、財源確保
 - …今後のNPOの支援体制、事務局作業の担い手

【活動写真や告知資料】



十六夜



てる坊



OUI

新聞		
産経新聞	9月13日(土)	朝刊
毎日新聞	9月13日(土)	夕刊
朝日新聞	10月2日(木)、10月12日(日)	朝刊、朝刊「大阪力」
大阪日日新聞	10月2日(木)	朝刊
読売新聞	10月3日(金)	朝刊
産経新聞	10月8日(水)	朝刊
京都新聞	10月9日(木)	朝刊
テレビ		
朝日放送	10月1日(水) 18:17	NEWS ゆう
毎日放送	10月6日(月) 18:16	VOICE
読売放送	10月7日(火) 18:16	ニューススクランブル
朝日放送ラジオ	10月8日(水) 6:45	おはよう朝日です
NHK	10月1日(水) 17:30	関西ラジオワイド
CATV		
日テレG+(ジータス)	10月22日(水) 10:30 10月24日(金) 17:05	読売ザKANSAI 読売ザKANSAI 関西トビックス 関西トビックス KANSAIニュース
ジェイコム/近鉄/ベイコム	10月22日(水)・23日(木) 7:45	
ジェイコム	10月27日(月)・28日(火) 7:45	
K-CAT/eo光テレビ	10月20日(月)~26日(日)	
雑誌関係		
ぴあ	9月25日(木)	
KANSAIウォーカー	9月30日(火)、10月14日(火)	
ザ・おおさか	9月25日(木)	
ザ・淀川		
Kプレス10月号	9月25日(木)	



(6) 水都大阪 2009 クルーズ&ウォーク企画および運営事業への参画

【事業趣旨・目的】

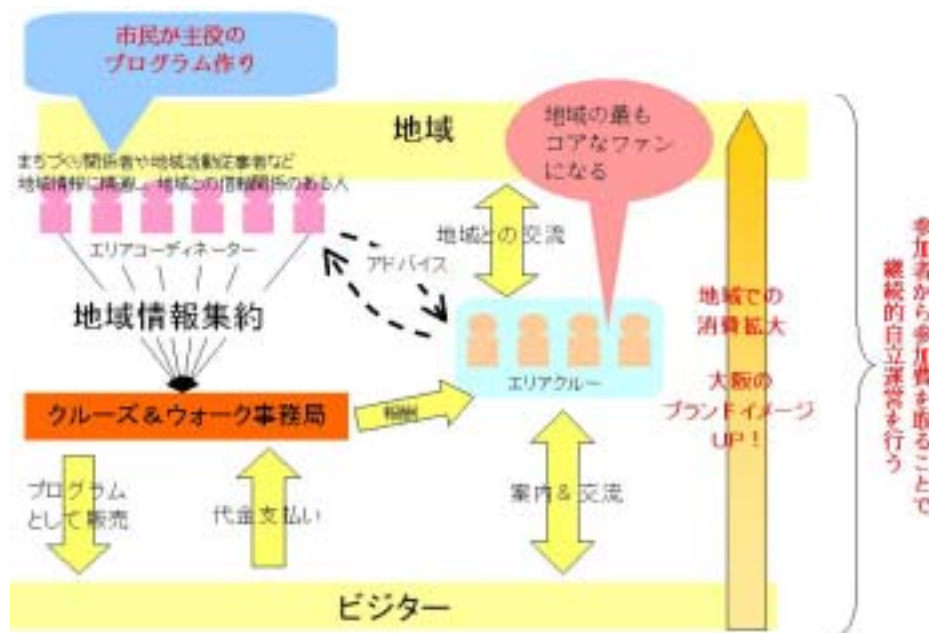
大阪まち遊学の取り組みを、大阪全体に広げ継続実施するため、水都大阪 2009 実行委員会に対してクルーズ&ウォークのプログラムを提案し、水の回廊WGに参加。これを踏まえて、株式会社インプリージョン・山根エンタープライズ株式会社とともに3社のJVで事業受託者のプロポーザルに応募し当選した。事業の目的は以下の通りである。

まちづくり・人づくり

観光・交流の機会づくり

水都大阪、新しい大阪のイメージづくり

自立継続する仕組みづくり



【事業内容】

- ・企画の提案、事業骨子の立案

1/18 澤田さん打合せ、水都大阪 2009 事務局会議にて提案

1/22、1/23、1/28、2/14

- ・水の回廊WG

第1回 2/15、第2回 2/28

- ・コアメンバー会議、全体会議など

3/7、3/18、3/29、4/1、4/18、4/23、4/30、5/1、5/8、5/13、5/16、6/2、6/10、6/19、6/23、7/1、7/11、7/14、7/23、7/28、7/30、7/31、8/5、8/7、8/8、8/12、8/18、8/19、8/25、9/2、9/5、9/12、9/17、9/29、10/2、10/7、10/23、10/27

- ・プロポーザル応募準備 (11/6 公募開始、12/1 提出期限)

11/6、11/16、11/18、11/26、11/30

- ・プロポーザル当選 (12/5 発表)

- ・コース開発、その他会議

12/15、12/16、12/18、12/20、12/21、12/22、12/24、12/27

【活動写真や告知資料】



コアメンバーによる会議風景



まちあるきコース案の選定作業

(7) もうひとつの旅談義の企画・実施

【事業趣旨・目的】

多様なテーマについて達人を招き、もうひとつの旅の新たな視点を探る

【事業内容】

第3回 川良真理さん（長崎さるく博市民プロデューサー）

『大阪の旅と受け皿のこれから』

- ・日 時：2008年4月5日（土）14：30～17：00
- ・会 場：レーベルカフェトテ（北区西天満）
- ・参加者：27名

【事業成果】

- ・長崎さるくの取り組みを通じて、まちあるきの本質、次世代観光の方向性、市民主体の意味などを再認識。「大阪まち遊学」の大きなヒントとなる。

【活動写真や告知資料】



講演する川良さん



会場風景

(8) 情報提供、提言活動事業

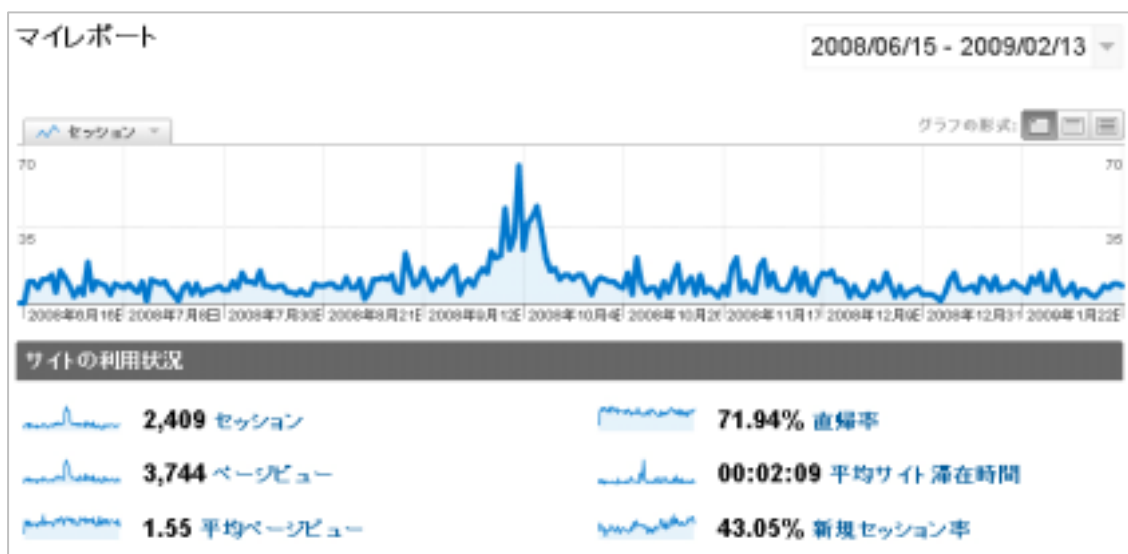
(1)～(7)に限らず、まちづくりのNPOとして大阪のまちの魅力を再発見・開拓し多くの人と共有するために、各種情報提供や政策提言活動への参加などを積極的に展開した。

ホームページによる情報提供

当 NPO の社会的プレゼンスの向上に伴い、2007 年度にホームページの全面リニューアルを実施し、今年度は本格的に運用した。大阪まち遊学の実施状況に合わせて、13 回の更新作業を実施した。また、トップページの新たな項目として「大阪川床 北浜テラス」を加えた。

2008年6月16日より Google Analytics を用いてトップページのアクセスデータを取得した。アクセス数は、まだ多いとは言えないが、ご来光カフェの時期が最も多い。大阪まち遊学、ご来光カフェ、取材依頼の際に、当 NPO を知った情報源としてホームページと回答した方が多く見られた。主な内容は下記の通り。

- ・アクセス数は、ご来光カフェ準備期間と開催中が最も高い。最高値は 10 月 3 日に 64 セッションを記録。平均すると 10 セッション/日である。
- ・参照元は、direct が約半数を占める。これは URL を知っている、またはブックマークに登録している方からのアクセスが多いことを示している。次に google、yahoo といった検索エンジンを用いてのアクセスである。
- ・検索キーワードは、「もうひとつの旅クラブ」が 36%、「ご来光カフェ」が 29%、「もうひとつの旅」が 6%、「旅クラブ」が 6%と続く。今後は「旅」などの一般キーワードでヒットする努力が必要である。



各種委員会・審議会等への参加

中之島活性化実行委員会への参加

中之島地域の活性化を図ることを目的として、その実現達成に必要な事項を検討するために設置。水辺のまちづくり企画推進委員会の実行組織に位置づけられる。

- ・事務局：近畿運輸局、京阪電鉄、もうひとつの旅クラブ
- ・実施日：2008年3月7日(金)、7月25日(金)
- ・担当理事：岩田理事

水辺のまちづくり企画推進委員会への参加

市長や知事、経済界代表などで構成される花と緑・光と水懇話会のもと、水辺の魅力を最大限に活かしたまちづくりの方策を検討する委員会。当 NPO は 2007 年 11 月より新規参加。

- ・事務局：水都大阪 2009 実行委員会
- ・実施日：2008 年 2 月 20 日（水）
- ・担当理事：泉理事長、岩田理事

水都大阪 2009 市民参加準備会議、市民企画会議「水都大阪 2009」ワーキングへの参加

水都大阪 2009 の実施にあたり、多様な価値観を持つ「市民＝個人」が集まって、市民参加プログラムのあり方、会期前の段階から市民が参加して共にイベントをつくりあげていくプロセス、進め方等を議論することを目的に開催された。

- ・事務局：水都大阪 2009 実行委員会
- ・実施日：2008 年 1 月 18 日（金）、2 月 1 日（金）、4 月 30 日（水）、5 月 16 日（金）、7 月 30 日（水）、9 月 4 日（木）
- ・担当理事：泉理事長、岸田副理事長

みんなの大阪会議への参加および企画・運営協力

水都大阪 2009 市民参加準備会議に参加した様々な団体・グループのメンバーが中心となって、サロンのような自主的な輪となる交流の場を 2008 年 6 月に発足した。当 NPO も世話人として発足から各回の企画・運営の協力を行った。

- ・実施日：2008 年 6 月 3 日（火）、6 月 23 日（月）、8 月 21 日（木）、10 月 15 日（水）（世話人会）7 月 29 日（水）
- ・担当理事：泉理事長、岸田副理事長

新聞等への掲載

北浜テラスや大阪まち遊学の実施を通じて、当 NPO の活動理念、活動内容が新聞・雑誌に掲載された。



大阪日日新聞(10/29)



朝日新聞(10/12)



日本経済新聞(11/19夕刊)



びあ関西版(10/9号)

八軒家浜賑わい施設運営に向けての検討

八軒家浜 2 期工事にて整備が予定されている賑わい施設について、指定管理者の公募を念頭に NPO 法人水辺のまち再生プロジェクトと共同でその可能性について検討した。

- ・実施日：2008 年 6 月 22 日（日） 10 月 21 日（火） 10 月 29 日（水）
- ・担当理事：泉理事長、岸田副理事長、岩田理事

2. 旅クラブの組織活動(組織活動の充実と強化)と財源確保

(1) 組織活動、市民参加による事業推進

会員の拡大

新規会員の増強を積極的に進めているわけではないが、ご来光カフェにおける運営ボランティアスタッフの充実や大阪まち遊学における常連参加者との交流などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。会員については、1 名の新規入会があった。

2008 年度の会員数

- ・正会員 24 名（前年度比 1 名増）
- ・賛助会員 0 名（前年度比増減なし）

組織活動

運営委員会を月例で開催し、大阪まち遊学、ご来光カフェなどの事業の企画・実施方策等を協議した。運営委員会の開催については新たに担当を定め、事務局ワークの軽減を図った。

企画調査業務など専門性が求められる事業においては、受託先との会議やとりまとめ作業は担当理事を中心に行うものの、多様な会員のスキルをできる限り活かした作業分担を図った。

総会（第 6 回）の開催

- ・開催日時：2008 年 3 月 23 日（日）16：00～17：30
- ・会場：ダイニングバー・ダゼロ（大阪市中央区北浜）
- ・出席：8 名（書面出席 12 名）、欠席 4 名
- ・議案：2007 年度事業及び決算報告

2008 年度計画及び予算の審議

理事会の開催

理事会は総会にともない 3 月 23 日（日）に 5 名参加（1 名欠席）にて行われた。

運営委員会の開催

以下の通り、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。

- ・ 1 月 14 日（月）7 名参加
- ・ 2 月 5 日（火）7 名参加
- ・ 2 月 22 日（木）8 名参加
- ・ 3 月 7 日（金）5 名参加
- ・ 4 月 12 日（土）8 名参加
- ・ 5 月 29 日（木）7 名参加
- ・ 6 月 16 日（月）8 名参加
- ・ 7 月 5 日（土）5 名参加
- ・ 8 月 5 日（火）6 名参加
- ・ 9 月 5 日（金）8 名参加
- ・ 10 月 14 日（火）6 名参加
- ・ 11 月 11 日（火）5 名参加
- ・ 12 月 9 日（火）13 名参加

事務局の場所の移転

2008 年 7 月に事務局を大阪市中央区安堂寺町 2-5-6-202 から大阪市中央区東平 2-3-5-3F に移転した。

(2) 財源確保の充実と課題

2008 年度の当 NPO の主な収入源は、ここ数年、企画調査業務の委託費が大きなウエイトを占めている。これにより NPO 運営の基盤となる定常的な経費がまかなわれている。今後とも財源確保の上では外部からの委託業務の受託は重要であり、水都大阪 2009 などとの連携を図りながら、NPO の将来像を見据えた戦略的な受託を図っていく必要がある。

ご来光カフェや大阪まち遊学など定着化した自主プログラムについては、プログラム毎に収支バランスを取る原則で、着実に継続していく。